

ふじのくに芸術祭2023(第63回静岡県芸術祭)演劇コンクール審査結果

令和5年12月17日

- 1 種 目 音楽・舞台芸術部門 演劇コンクール
- 2 会 場 県内各会場
- 3 期 間 令和5年6月1日(木)から12月3日(日)まで
- 4 参加団体数 8団体(協賛参加2団体、招待参加1団体含む)
- 5 入 賞

賞	劇 団 名	寸 評
	脚 本	
	代 表 者	
静岡県芸術祭賞	劇団からっかぜ	もやしの成長と人の成長。時代と共に変わるものと変わらないもの。現代における豊かさのカタチを考えさせられました。洗練された演出、深い役作り、生活感のある美術。総合的な完成度の高さが好評でした。
	もやしの唄	
	布施 佑一郎	
後援者賞 (産経新聞社賞)	創作処 愛染屋	オリジナル作品として、性別への偏見、こだわり、結婚観、将来の不安感、現代の若者を取り巻く問題を非現実的な設定を交えて一つ一つのエピソードとして取り上げた作品でした。役者が、自ら考えて芝居を作っていくスタイルが評価されました。
	心信辛伸苾-SHIN-	
	露木 凜	
奨励賞	演劇ユニット FOX WORKS	善悪をはっきりさせたがる風潮、先行きの見えない不安。現代社会を切り取ったチャレンジングな作品として評価が集まりました。表現については賛否がありましたが、小劇場のメリットを生かした演出が好感を呼びました。
	LAST SHOW	
	狐野 利典	
準奨励賞	TOMO☆PROJECT	合戦という形で観客を巻き込み、両市の特色を表現していく観光課職員のプレゼンテーション芝居は、高揚感のあるイベントのようでした。画期的な取り組みであり、地域に社会的役割を果たす新しい演劇のスタイルとして評価されました。
	菊川 VS 牧之原合戦！！	
	松尾 朋虎	

6 審査員 飯沼 司郎 大石 敦史 他県民公募審査員4名

7 審査総評

今年は、例年に比べ単独での劇団の公演よりも、他の劇団からのキャストを迎え入れる合同公演や、プロデュース公演が多かったことが印象的でした。これは、県内の劇団が、俳優の募集や育成の難しさを抱えていることが根底にあると考えられ、演劇界にとって危惧される問題と思われます。

しかし、一方で、合同公演やプロデュース公演で俳優が、所属劇団以外の公演に参加することで新たな刺激を受け、表現力が向上し、多様な表現の公演が数多く開催されるようになってきているということはプラス面として話題にあがりました。

活動や公演のスタイルも時代の変化に寄り添わせていかなければならない難しさがありますが、今後も演劇に携わる方々が知恵を出し合い、より良い形での演劇活動が継続され、地域の文化活動が発展されていくことを期待しています。

審査員代表 (大石 敦史)